令和３年度　　自己評価（活動計画）

学　校　教　育　計　画	香川県立多度津高等学校

教育方針	
	(1)自ら学び、考え、行動する意欲や能力を育てる。 (2)夢や理想に向かってチャレンジする精神や態度を育てる。 (3)自然との共生について認識を育てるとともに、伝統文化を理解し尊重する豊かな知性や教養を育てる。 (4)社会の担い手としての、望ましい勤労観・職業観や社会奉仕の精神を育てる。 (5)一人一人の個性を磨き、豊かな道徳性やたくましい精神力・体力を育てる。

前年度の成果と課題	本年度の重点目標	具体的目標	全体評価
・TAKOUかわら版のカラー化、学校紹介DVDの作成を通じて、中学校、校外への情報発信を充実させた。 ・スクールポリシーの策定・発信により、全国募集枠での入学生徒を獲得できた。 ・創立１００周年記念行事の計画の具体化に伴い、やるべき作業が明確になった。 ・共同運航実習船「翔洋丸」の緊急事態に対する体制の改善点が見つかった。	・地域や産業界と連携し、専門教育の充実を図る。 ・魅力ある学校づくりに努め、情報発信のより一層の充実を図る。 ・創立百周年記念事業を成功させる。 ・共同運航実習船「翔洋丸」の緊急事態対応を改善する。	・昨年度以上の入学生徒を、全国枠で獲得する。 ・インターンシップ、校内への講師等招聘事業を、一昨年並みに実施する。 ・学科主任等による中学校訪問の回数を増やし、持参物を工夫して、さらに本校の魅力を伝える。 ・メール配信システムを刷新し、よりきめ細かく情報を発信する。 ・学校ホームページの工夫、新学校紹介DVDの作成等を通じて、情報発信を充実させる。	B

	評価項目		本年度の主な活動目標	主な具体的方策	評価 中間	評価 年度末	成果・反省点・次年度の課題等
1	総務		コロナ禍の中、工場見学や芸術鑑賞など各種行事が円滑に実施できるよう努める。	以前からの資料を整理、把握して前の担当者の助言を受ける。新型コロナウイルス対策による実施時期は柔軟に対応する。	C	C	工場見学に関して一部足並みが乱れるようなことがあったので、来年の課題にしたい。
2	教務		各分掌、学科、学年団等と連携し、学校行事を円滑に行う。	組織全体で関係職員が積極的に関わることができる環境を整える。学校行事をできるだけ実施できるように工夫する。	A	A	創立100周年事業をはじめ、ほとんどの行事が感染防止対策をとりながら行うことができた。感染状況によるが、次年度もできるだけ行事を実施したい。
3	特別活動		学校行事やボランティア活動の中で集団行動を経験し、豊かな人間性を高める。	令和４年度開催予定の四国インターハイや令和７年度開催予定の全国総文祭香川大会に向けた準備に積極的に参加しコミュニケーション能力を高める。	B	B	新型コロナウィルスの影響で積極的な行動を起こすことはできなかったが、生徒の考えを尊重し、企画することができた。
4	生徒指導		懲戒等、指導を受ける生徒数の減少。	発生状況を分析し、事前予防を徹底する。	D	C	昨年度より、大幅に増加した。しっかりと分析し、次年度につなげたい。
5	教育相談		教育相談体制の充実	カウンセリングにより支援の必要な生徒を把握し、個に応じた支援をする。SC,SSWや外部機関との連携をとる。	B	B	深くかかわれていない生徒もいる。来年度はメンタルコントロールや多様な特性を持っていることを認められるような取り組みを考えたい。
6	進路指導		生徒の希望に沿い、適性に応じた進路実現100%を目指す。	就職に関しては、あらゆる機会を活用し各種情報の公開と相談を行う。進学については情報を得る機会を増やし、受験対策についても考えていく。	A	A	就職希望者は１００％の結果を出すことができた。進学希望者は国公立大学の合格も出た。
7	人権・同和教育		いろいろな人権問題について生徒に正しく認識させ、問題解決のための行動力と実践力を身に付けさせる。	参加型学習形態のLHRを通して積極的な取り組みを行う。障害者との共同・交流学習を通じて人権意識を高める。	B	A	特別支援学校の生徒と交流を深めた。次年度も継続して取り組めるように計画をしたい。
8	保健管理		自己管理や安全に対して意識できる生活習慣を育成する。	体調管理への意識づけ、新型コロナウイルスについての啓発を行う。性教育講演会を実施する。	B	B	新型コロナ対策、対応、啓発、情報発信を引き続き行った。
9	いじめ防止対策		いじめの早期発見に努め、深刻な事態の発生を未然に防ぐ。	生徒情報の収集、共有を図る機会を設け、生徒の実態をより的確に把握する。	B	A	担任、顧問から、関係教員への報告・相談ができており、いじめに至る前で対応できた
10	学年団	１年団	基本的生活習慣を確立させ、社会性や公共心を身につけさせ、場面に応じた適切な行動ができるように指導する。	学校生活のあらゆる場面での基本的生活習慣を身につけさせ、規律と責任ある行動がとれるように指導する。	C	C	コロナ禍に応じた指導の影響があり、出席状況が悪く基本的生活習慣が確立できていない生徒がいる。
11	学年団	２年団	進路意識を高め、具体的な進路目標を早い時期から持てるように指導する。	あらゆる機会を有効に利用し、進路指導部および各科と連携して、生徒が早期に進路目標を設定できるよう保護者に協力を仰ぐ。	C	B	進路説明会・LHR・保護者懇談・担任との面接等を通じて、進路に関する意識が高まったと思う。
12	学年団	３年団	生徒の希望する進路目標達成のための適切な学習指導・生活指導にあたる。	個人面接を頻繁に行い、生徒の進路希望と適性を的確に把握したうえで、必要な学習指導・生活指導にあたる。	B	B	就職・進学ともに過去のデータを活用できた。保護者への情報提供はＰＴＡ係と連携することが必要だと思われる。
13	教科指導	普通科 国語	文章の内容を正確に読み取り、主題や要旨を的確にまとめる。	国語辞典の利用や書取テストの練習などを通して漢字や語句の力をつけさせる。	C	B	辞書の使用にも慣れ語句への関心が高まった生徒も多いが、まだまだ辞書の使用を億劫がる生徒がほとんどである。
14	教科指導	普通科 地・公	高校生・社会人に必要とされる基礎知識の定着を図り、就職や進学に役立つようにする。	興味・関心をひき出す話題や教材の提示。板書事項の精選。	B	B	視聴覚教材を使い、興味を持たせるようにした。課題の提出状況はおおむね良かった。復習プリントや確認テストも実施した。
15	教科指導	普通科 数学	基礎学力の定着	授業の工夫。課題提出の徹底。追試や補習授業など特別指導及び個別指導	B	B	個別指導を行わなければならない生徒が多くなった。教員の人数や時間に限りがあるが、来年度も基礎学力の定着に向け指導を継続していきたい。
16	教科指導	普通科 理科	進路に必要な学力や自然観を育てる。	専門の学習内容にできるだけ関連付けて授業を展開し、科学的な側面から思考力や基礎学力の定着を図る。	C	B	教科横断的な授業内容が求められ、理科だけでなく専門分野や数学の学力向上につなげていきたい。
17	教科指導	普通科 保体	集団と個人の安全面について理解させ、体力、運動能力を高める様々な活動に取り組めるようにする。	積極的に体力、運動能力の向上を目指す。コロナ感染予防にも努めるとともに個人の予防対策も習慣づける。	C	C	意欲が高い中、限られた範囲内での活動で目標や課題を達成することは難しい。
18	教科指導	普通科 芸術	幅広い表現活動を通して個々の制作意欲を高め、主体的な粘り強い制作姿勢を身に着ける。	一人ひとりの表現に応じて個別指導を充実させる。	B	B	ICTを活用した授業を積極的に行うことで、制作意欲や主体的な制作態度を高めることができた。
19	教科指導	普通科 英語	英語に興味関心を持たせ、積極的にコミュニケーションする態度を身に着ける。	授業以外でも、積極的にＡＴＬとのコミュニケーションをとる。	B	B	提出物はほとんどの生徒が提出できている。英検を希望する生徒が水産科の低学年にみられるようになった。
20	教科指導	普通科 家庭	家庭生活に必要な基礎基本の定着を図る。	個々に活動する実習を積極的に取り入れ、技術の定着を図る。	B	B	コロナ禍の実習だったため通常の実習は出来なかった。消費者教育では、具体的な事例を提示し自ら判断・対処ができる知識の定着を図った。
21	教科指導	専門科 機械	身につけた知識や技術を活用できる能力の育成とものづくりの楽しさを知り、公開展で成果を発表する。	計画的に作品製作に取り組み、製作活動を通して、身に着けた技術や知識が生かせることを実感させる。	B	A	公開展や課題研究発表会でその成果を発表し、かわら版やＨＰにも掲載して広報活動も充実した。
22	教科指導	専門科 電気	電気の専門分野に関する基礎知識や技能を身につけさせ、将来の電気技術者を育てる。	専門教科に興味関心が持てるようにICT機材を利用し、わかりやすい授業を行う。	B	B	資格試験では成果が思ったほど上げられなかった。中学生にはドローン撮影や公開展などの機会を利用してアピールできた。
23	教科指導	専門科 土木	基礎的な知識・技術を定着させ、土木技術者に求められる資質や能力、態度を養う。	座学と実習を関連付けて、実践的・体験的な活動から学習の動機づけを図る。	B	C	1年生の格差が改善できておらず、3年生の資格取得者が減少している。見学会が実施できなかったが公開展の計画・準備が好材料となった。
24	教科指導	専門科 建築	建築への興味・関心を持った授業を展開する。	授業の進め方において、参考資料や映像など教材を生かした取り組みを行う。	A	A	モニターを使用しての授業など、視覚的な活動を取り入れることにより、生徒の興味・関心が沸いた。
25	教科指導	専門科 技術	基本的生活・学習習慣の確立	基本的なルールを学校生活全般を通して指導することにより、長期間の乗船実習や進路先で必要な社会一般常識、協調性を身に付けさせる。	C	C	２学期の終盤には学科全学年で落着いた雰囲気になってきた。特に重点的に指導を続けていた１年生も学習に向かう姿勢良くなってきた。
26	教科指導	専門科 生産	進路指導の充実と海洋生産科の学科としての魅力を更にアップさせる。	学習指導要領の改訂や変化する社会情勢に柔軟に対応すべく、教育課程、学習内容を積極的に見直していく。	C	C	海洋生産科の魅力アップや社会情勢の変化のために教育課程や学習内容を絶えず見直し続けたい。

※年度末評価（最終目標達成見込み）：Ａ　８０%以上（順調に実施でき目標を達成できた）　Ｂ：７９～６０%（やや遅れ気味であったが目標は達成できた）　Ｃ　：５９～４０%（遅れ気味で目標達成が難しい）　Ｄ：３９%未満（年度内の目標達成が困難である）